

法人理念

安心 信頼 幸福

理念の基に…

法人および各事業所は社会資源であるということを自覚し常に信頼を第一に考え、安全で安心して、誰もが末永く利用できるものでなければならない。
法人は常に利用者にとって、職員にとって、社会においてその具体的な役割を描き事業を遂行していくものとする。
職員は法人の理念を理解し、利用者ならびにそのご家族と信頼関係を築き、社会一般的な価値観に基づき、支援をおこなう。
また、職員自らも自分の将来像を描き、安定した生活を維持するために法人および職員間で協力し合い業務にあたるものとする。
そして職員も利用者も人として、あきらめない・にげない・くじけない・とらわれない、そのココロを大切にして活動をしていく。
幸福であるために…。

★より良い支援にむけて ～社会福祉法人クローバー支援姿勢～

① 怒らない（声をあげない）、注意しない工夫

メンバーが楽しく作業に参加できる、職員も楽しくメンバーと一緒にその作業に参加できるように心がけましょう。

入居者が帰ってきて“ほっ”と出来る、職員も入居者と一緒にくつろげるよう心がけましょう。

過剰に褒められるより、当たり前前注意されない一日にする。

例えば、今日一日、絶対に怒らない（声をあげない）、注意しない（きちんと伝える）、そう心に決めて過ごすことも大事ではないでしょうか。

② 伝える工夫

伝えるための努力を怠らないこと。伝えるということは言葉や気持ちをただ、相手に渡すだけでなく、相手がそれを受け止めてそれに答えて初めて成されるものです。

伝わる工夫をしましょう。 いつまでも。

③ ルールにとらわれすぎない

細かいことにこだわりすぎていませんか？

職員がこだわっていることとメンバー、入居者がこだわっていることは根本的に違うということを理解しましょう。

職員が作ったルールや役割が本当に必要なことなのかもう一度見直して下さい。

今まで注意していたことも視点を裏返すと良い評価に変わります。

★支援のふりかえり

- あいての能力をきちんと認めていたか
- 私とあなたは仲間だと感じてもらえたか

法人理念

安心 信頼 幸福

障がいのある方への支援、本質は変わらなくてもそのとらえかたは時代と共に変わってきました。 30年前、私がこの仕事に就いた頃、そこで働く私たちは『先生』と呼ばれ、お手伝いくださる方たちは、恵まれない人たちを助ける…という考え方が多かったように思います。 私たちはそれを否定して、新しいやり方を模索してきました。

近年、障がいのある方たちを支援する形態も多種多様になり、そこで働く人材も様々な経験、経歴を持つ人が集うようになってきました。 おかげで障がいのある方たちの活動の幅が大きく広がりました。

しかし、その反面、職員の価値観が多様化してきたため、今までは伝わってきた事が伝わらなくなってきたり、誤解を生んでしまうことも生じています。 今まで私たちは『支援する』ということを実感的に捉え、実践しそれを継承してきました。 もう自分たちの背中を見て学べ！ という時代ではないということを感じています。

支援とは…

事業所の職員会議で、支援するってどういうことか考えてみました。 言葉では当たり前前にわかっている『支援』ということすら人によってとらえ方はまちまちでした。

職員は誰しも良くなるようにと、善意で行動しています。 でもそれが実は、『支援』ではなく『おせっかい』であったり、『余計なお世話』になっている事が多分にあります。 そして最悪は、メンバーが自分でやりたいって思っていること、その自由や権利を知らず知らずのうちに奪っていることもあります。 その違いについて話し合いました。

支援する、何を支援するのか。 それは自立です。 自立とは自分で自分の問題や課題を解決しようとするチカラや勇気だと考えます。 そしてそのチカラや勇気を阻害するのが障がい…だから私たちがすることは、本人が自分で解決しようとしているところをお手伝いすることで、けして代わりにやってしまうことではない、そんなふうに考えます。

だから、クローバーの支援の振返りではこんなことをいっています。

その支援は、自分には能力があると感じてもらえたか…。

おせっかいではない支援をするためにはどうすれば良いか。それは、メンバーが抱えている課題、メンバーが自分で解決しなければいけない課題に職員が勝手に踏み込まないことではないでしょうか。

例えば、お小遣いを自分で持っていたい、日中活動にも行ってみたいという願いがある。でも、自分で完璧に管理することは難しい。そんな時、どうしたら良いのか。

こんな考え方もあります。お金を失くすかもしれないのに持たすのはおかしい。失くすと大変だし本人も困るから職員が持っていた方が安心だ…。でもこれだと、メンバーが自分で自分の問題を解決したことにはならないんです。そのメンバーの願いは、自分で自分のお金を持っていたい、というごく普通の願いです。だから私たちがお手伝いできるのは、お金をなくさないための工夫だと考えます。どうしたら、自分はお金を管理できるチカラが身につくか、そこを支援していきたいです。

支援をする時に勝手に支援をすることはできません。必ずメンバーにことわってから支援をします。メンバーと良く話し合っ、メンバーのことを良く見て、知ってから支援をします。何をどう支援するか具体的に相談して、きちんと決めてから支援します。つまり、職員が職員の一方的な価値観で全てをやってしまったてはいけないということです。

例えば、歯磨きの支援。何でもかんでも最後に職員が仕上げをすれば良いわけではありません。メンバーによって、最後の仕上げで職員が手を貸した方が良い人もいれば、声掛けだけですむ人もいます。その確認をしないで踏み込むと、メンバーの能力を認めないことになり、余計なお世話になり、メンバーと協力関係が作れなくなります。

メンバーが支援をするためには協力関係ができていないと、支援を受け入れてもらえず、迷惑だと思われることもあります。

例えば、職員が話をしているとき、あるメンバーは話を聞いてくれていたけれど、あるメンバーは話を聞いてくれなかった。職員は、メンバーは職員の話聞くのがあたりまえだと思っているところがあります。これが大きな間違いです。メンバーが職員の話聞くというのは、職員に協力していると考えます。

職員とメンバーが協力関係を作るためには…基本はメンバーの話をしっかり聴くことからです。そして話を聴く時は、行動ばかりに注目するのではなく、メンバーが何に関心をしめしているのか、そこに注目することが大事です。相手の関心に関心を持つことをすると、協力関係が強化されていきます。

だから、クローバーの支援の振返りではこんなこともいっています。

その支援は、私とあなたは仲間だと感じてもらえたか…。

メンバーが主体となり、自分の人生を大切にできるような支援を目指していきます。

実施予定事業

- ・ フロンティア、であいの里 移転準備と新施設の開所（別紙参照）
- ・ 第三者委員の強化
何かあったら対応していただくという意識で、今日までできてしまったため、大幅に意識を見直し、積極的に事業所に足を運んでいただけるような体制にする。
- ・ 職員総会
各職員が研修等で学んだことを、他の職員に発表し、またそのことについてグループワークを行い共有する。
- ・ 送迎事業 将来的には事業所への委託を増やしていきたいと考えています。
- ・ 看護師による巡回相談と勉強会 各事業所（日中活動）毎月1回
病気や体調不良の早期発見、本人、ご家族、職員の健康に関する不安解消を目的とします。
新規とりくみとして、看護師に講師となっていただき、メンバーやご家族にもわかりやすい健康に関する勉強会を実施。
- ・ 健康診断
利用者：年1回，職員：年1回（宿泊勤務が主体の職員は年2回）
- ・ 研修 法人主催，関係機関主催の研修への参加，職員からの希望に応じた研修への参加
- ・ 外部機関との連携 自立支援協議会関係，社会福祉協議会関係 他
- ・ 始業式・入社式，全体保護者会 年1回ずつ
- ・ 就業規則の見直し【継続】 5月頃完成予定

※ _____ は新規もしくは強化事業

社会福祉法人クローバー 理事長 高橋良壽

生活介護事業所クローバー【2016年度】事業計画案

(フロンティア, であいの里, Begin)

1. 利用者の状況

①利用開始・退所

- フ 14名
- で 09名
- B 10名

②支援計画の作成予定 ※年2回

- フ 2016年4、5月分より9名, 2016年7月分より3名, 2016年9月分より2名
- で 2016年4月分より5名, 2016年10月分より4名
- B 全員6ヶ月毎に作成し、振り返り、面談を実施

2. 活動の状況

①工賃収入につながるプログラム

- フ メール便(書類搬送業務), 情報誌ぱど ※移転後に製菓開始予定
- で 受注作業(かまめし, ちらし) ※移転後に製菓開始予定
- B 製パン・クッキー(店舗販売・外注), ビーズアクセサリ, 機織り

②生活プログラム(創作活動, 買物, 調理等)

- フ, で 調理, 買物, 洗濯, 地域清掃, ビーズ作成
- B 絵画, 買物, 地域清掃

③地域との関わり(地域と一体となって取り組みたい課題)

- フ, で 顔の見える関係作り(メンバーと一緒に近隣に、通勤経路のお宅に開設の挨拶)
- B パンの外注販売(法人内他事業所 別法人事業所 YMCA学童クラブ)

④社会貢献的な取組

- フ, で 深谷地区でのボランティア受け入れ, 地域住民・民児協の福祉施設見学受け入れ
地域とつながる連絡会(区社協)に積極的に参加
- B 隣接する公園内での美化活動(ゴミ拾い・分別作業)

⑤行事(取り組みたい主な行事3つ)

- フ, で 旅行, 地域交流を目的としたバスハイク, 深谷地区盆踊り
- B 日帰り外出 1泊旅行 バスハイク

⑥防災訓練（前年度反省から実施したい訓練）

フ、で 消防署見学，作業グループ別防災訓練

B 非常食の継続的な補充と活用

3. 会議, 研修

①メンバー会議（前年度の取り組みから取り上げたい議題）

フ、で 移転後に取り組む新しい活動の検討，飲み物や食べ物が体に与える影響を考える機会を持つ

B 係分担の改定

製パン作業のパンを昼食で食べたいという要望ありその実現に向けた取り組み

④研修（受けてみたい研修を記入）

フ、で 障がい基礎理解，勤務年数が少ない職員の研修（新人研修等），事例検討研修

B サービス管理責任者研修，自閉症に関する全般

4. その他

①看護師に相談したいこと

フ、で 健康的な体作りと体力増加（季節によって体力が落ちたり食欲が落ちたりするので）

体重増加改善への取組み、個別の体調管理（健康診断の結果より）

B 利用者の重度化，高齢化に対する生活支援の在り方に関して

②自主的な改善点

フ、で 移転に伴う昼食メニューの見直し（量，見た目，栄養バランス）

B パンの包装を1F店舗で行なっていたが、衛生面と異物混入を防ぐ観点から2Fパン工房で済ますようにした

5. まとめ

フ 2016年の7月に戸塚区深谷町に移転するので、移転前は施設内の片付けや今までお世話になった地域の方々や関係者への挨拶を行っていきたいと思います。また、移転後は施設のある周辺の地域の方たちとの関わりを大切に、新しい活動に取り組んでいきます。

で 今年度は行事や移転に関してフロンティア、であいの里で合同行事や合同メンバー会議を開き両施設の職員、利用者の親睦をこれからも深めていこうと思います。

B パンを常時2～3種類店頭に並べられるようになり、パンを選ぶ楽しみも加わった。ビーズアクセサリも店頭に並び、少しずつ種類を増やしている。

他事業所の製パンや店舗の様子などを学ぶために、定期的に見学・購入する機会を増やしていく。

共同生活援助（GH）【2016年度】事業計画案

（みんなの家、れもんの家、みかんの家、いちごの家）

1. 利用者の状況

参考

ミ：みんなの家

レ：れもんの家

み：みかんの家

い：いちごの家

①利用開始・退所

ミ 変更なし

レ 変更なし

み 変更なし

い 【入居】4月中旬ころ(予定) 1名 ※3月末日をもって1名転居

②支援計画の作成予定

ミ 2016年3月, 9月

レ 2016年3月, 9月

み 前期(2016/3) 後期(2016/9)

い 2016年3月, 9月

2. 支援の状況

①日々の支援で気をつけること

ミ 一人一人が持っているチカラを上手に引き出し、それが協力関係になっていくように職員が支援をしていく。

レ 利用者の話をとことん聴き、利用者の主体性を尊重し、安心安全な生活を支援する。

み 自立心を育む支援を目標としています。それぞれの入居者さん達が無理せず自分ができる事を自分で行なえるよう過度の支援はしないよう注意しています。

い のんびりと安心して過ごすことができる環境のなかで、利用者と話をする時間を積極的につくり、ひとりひとりの想いを大切に、幸せな生活を送ることができるよう支援する。

②健康管理（含食事）で気をつけること

ミ ガイド等を利用して外出をする際など、入居者としっかり話をし、メンバー本人がどのように生活をしたいか、そこをしっかりとくみとり、必要な支援をおこなう。

レ 必要と思われる入居者へ生活習慣病予防検診や特定健康診査などの受診を勧め、入居者と共に“健康”について考える機会をつくる。

み 体重の増減を確認し主食の量を調整しています。また食事の時間は皆さんで会話を楽しみながら食べるようにし、早食防止を図っています。

い 入居者が“管理されている”と感じないように配慮する。生活のなかで身体を動かすことができるよう工夫する。

③金銭管理で気をつけること

ミ 節約ばかりに気を向けてしまうが、ご本人が上手に、生活が豊かになるように上手に使える支援をおこなう。

- レ 入居者の主体性を尊重し、必要以上に管理しないようにし、入居者からの困りごと等の相談の際は、きちんと対応する。ホームで管理させていただいている生活費については、皆さんの大切なお金という意識をもち、責任を持って管理する。
- み 複数の職員での金銭管理体制
一万円以下の現金も金庫で管理
- い お小遣いを有意義に使うことができるよう、ご本人と外出の日程や内容をなどの相談をすることを大切にします。ご本人と相談する際には、ガイドブックなどを利用し、入居者が自分の希望や想いを伝えることができるよう工夫します。

3. 事業，会議，研修

①行事（取り組みたい主な行事3つ程度）

- ミ 旅行，季節の催し，地域の行事への参加
- レ 1泊旅行，お誕生日のお祝い
- み GH旅行(みかんの家のみでの旅行)
居酒屋で食事会(居酒屋に行きたいという入居者さんが多かったので)
クリスマス会(外出しクリスマス気分を味わいたいという意見が多かったので)
- い 1泊旅行，クリスマス会，お誕生日のお祝い

②防災訓練（前年度反省から実施したい訓練）

- ミ 地域の防災訓練の参加
- レ ホームにおいて災害があった時の行動，対応についてと合わせて、入居者の日中施設等への通勤途中や外出時などホーム外にいる時に災害があった時の行動，対応についても、入居者と共に考えたいと思います。また、入居者と共に、地域の防災訓練に参加したいと思います。
- み 繰り返し行われる訓練により緊張感が薄れてきているので、普段と違う訓練を取り入れる(暗闇の中での避難訓練・事前に訓練を伝えない避難訓練など)
- い ホームにおいて災害があった時の行動，対応についてと合わせて、入居者の日中施設等への通勤途中や外出時などホーム外にいる時に災害があった時の行動，対応についても、入居者と共に考えたいと思います。また、入居者と共に、地域の防災訓練に参加したいと思います。

③メンバー会議（前年度の取り組みから取り上げたい議題）

- ミ 会議という場にとらわれず、日々の生活から入居者のこち良い生活をくみとる。
- レ 行事などの相談やお知らせだけでなく、入居者からの意見を聴く機会を多くつくりたい。
- み 入居者の今後の目標（意見を参考に今後の支援に役立てたい）
健康管理について（食生活や運動について話し合い皆さんの健康への意識を高めたい）
- い 行事などの相談やお知らせだけでなく、入居者からの意見を聴く機会を多くつくりたい。

④研修（受けてみたい研修を記入）

- ミ 事例検討会に参加し、他の事業所の職員と意見交換をする場を多く設ける
- レ 入居者支援に関わる内容の研修(基本から応用まで)
- み ガイドヘルパー研修・身体介護研修
- い 入居者支援に関わる内容の研修，栄養学の研修

4. その他

①地域との関わり（地域と一体となって取り組みたい課題）

- ミ 地域の一員として地域事業に積極的に参加する
- レ 地域の行事に参加（盆踊り、お祭りなど）。
- み 災害時に連携がとれるよう地域の避難訓練などに参加したい
- い 地域の行事に参加（盆踊り、お祭りなど）。地域の中の社会資源の活用。

②社会貢献的な取組

- ミ 町内会役員等への参加を検討
- レ ゴミ置き場の清掃（継続）。ホーム周辺のゴミ拾い。降雪時等の地域の困りごとの際に、地域と協力して取り組む。
- み 休日の日中などに近所のゴミ拾いをして社会貢献兼地域との関わりを深めていきたいと思っています
- い ホーム周辺のゴミ拾い。降雪時等の地域の困りごとの際に、地域と協力して取り組む。

③自主的な改善点

- ミ ホーム内の美化。旧ゆうきの里（名瀬）から持って来た物の整理。
- レ 過度なルールをつくらず、ルールにこだわらず、ひとり一人の想い、希望に寄り添うように努める。ひとり一人の得意なことを生活の中で活かすことができる機会を多くつくる。
- み 開所から10年が経ち、ホーム内の設備も古くなってきているので、入居者さんの生活に影響がないよう使えなくなる前に交換するなどの対応をしていきたい。
- い 過度なルールをつくらず、ルールにこだわらず、ひとり一人の想い、希望に寄り添うように努める。ひとり一人の得意なことを生活の中で活かすことができる機会を多くつくる。

5. まとめ

- ミ、レ 入居者の話に耳を傾け聴いてみると、入居者の希望や想いの中から、職員としても気づかされるものがたくさんあります。当たり前なことを当たり前にすることができる環境にできていなかったという現実には気づかされます。言葉で自分の想いを表現することができる入居者の言葉を真摯に受け止め、言葉で自分の想いを表現することが苦手な入居者とは、しっかりと向き合い、入居者ひとりひとりの生活についてこれからもしっかりと考えていきたいと思っています。
- み みかんの家は、入居者さんが施設ではなく、家と感じてもらえるような環境づくりを第一に考え、今までやってきました。これからもそれを第一に考え、入居者さんにとって、居心地の良い家を目指し支援に努めたいと思います。
- い 2016年度、新しい職員を迎えてのはじまりとなります。新しい職員2人とも、入居者の皆さんと1日も早く、良い関係を構築することができるようにと日々入居者の声に耳を傾け、きちんと向き合っていきたいという想いが伝わってくるので、とても嬉しく思っています。入居者と新しい職員と一緒に紡いでいくこれからの物語…楽しみです。

地域活動支援センターいとぐるま【2016年度】事業計画 案

1. 利用者の状況

①利用開始・退所

14名（変更なし）

②支援計画の作成予定

4月、10月 年2回

2. 活動の状況

①工賃収入につながるプログラム

機織、受注作業、はがき作り

②生活プログラム（創作活動, 買物, 調理等）

私プログラム（利用者希望プログラム）、音楽活動、園芸活動、運動、買物

③地域との関わり

フリースペースでの地域交流

④社会貢献的な取組

美化活動（地域清掃週1回）

⑤行事（取り組みたい主な行事）

機織施設見学、成人祝い、喫茶外出（毎月）

⑥防災訓練（前年度反省から実施したい訓練）

地域の消防署による防災訓練

3. 会議, 研修

①メンバー会議（前年度の取り組みから取り上げたい議題）

私プログラム（利用者希望プログラム）の内容と結果報告

②研修（受けてみたい研修）

社会福祉士主事任用資格（職員1名）

4. その他

①看護師に相談したいこと

食事バランス、生活習慣について

②自主的な改善点

利用者希望プログラムの新設

5. まとめ

2016年度は、「私プログラム」という、利用者希望プログラムを新設します。内容は、利用者それぞれから希望をとり、利用者が自主的にできて、社会性や能力の向上を目的としています。

2月のメンバー会議で、実際にどんな事をしたいか利用者に希望をおうかがいしたところ、文字の練習、計算、ビーズ、塗り絵、駅名を覚えたい、読書、PC・・・など、さまざまな希望が挙げられ、みなさん楽しみにしながらお話しして下さいました。また、「私プログラム」という名称も利用者が考えて決定しました。今後もメンバー会議では、「私プログラム」の内容を決めたり、経過や感想などを利用者から報告していただくと思っています。

いとぐるまには、機織や受注作業という柱になるプログラムがあります。柱となるプログラムに、利用者をいかに合わせていくか支援をしていますが、それとは逆の視点で、利用者が希望したり必要としている事に、いとぐるまが寄り添っていけるプログラムを作りたかったからです。

「私プログラム」により、利用者はいとぐるままで充実した活動を送っていただき、職員にとっては、利用者への支援を向上させる、大切なプログラムになっていけたらと思います。

いとぐるま 施設長 泉 和真

新施設 2016年度 年間事業計画(案)

1. 移転事業 2016年度 前期

- 【3月】 3/16(水) 10:00~11:45 戸塚区役所3F 多目的ホールBにて合同保護者会 開催
養護学校訪問。移転のお知らせと2016年度実習受け入れについての説明。
引越し業者に見積依頼。各施設の不用品処分。
末日をもって、であいの里リサイクル事業終了。
製菓商品決定。
2016年度前期事業(案), 2016年度年間防災計画(案)作成。
- 【4月】 送迎ルート, 送迎時間, 送迎ポイント最終決定。引越しの段取り具体案。第1回製菓研修。
であいの里 地域連携締め括りの会『お花見』(舞岡たすけあいの会)
- 【5月】 グループ分け最終決定。1日の流れ最終決定。第2回製菓研修(利用者を含めた工程作り)。
- 【6月】 内覧会(三井ホームと要相談。地域住民向け), 自力通勤ルート沿い、挨拶回り。
自力通勤訓練開始。大型家具の配置確認。廃品回収依頼。
製菓作成工程に基づき、必要備品のピックアップと購入。
- 【7月】 大型家具の引越し, 大型調理器材搬入。(7月上旬を予定)
開所式(7月上旬を予定。大型家具搬入後。)通常プログラム開始。細かい荷物の運搬含む。
- 【8月】 であいの里 地域連携締め括りの会『お好み焼きパーティー』
(舞岡柏尾地域ケアプラザ, やまぶき工房)

2. 新施設 2016年度 前期 事業計画(案)

- 【4月】 交流事業: ぽど2/月, プール2/月, かまめし&ちらし2/月
であいの里 地域連携締め括りの会『お花見』(舞岡たすけあいの会)
行事『大岡川 桜まつり』
- 【5月】 交流事業: ぽど2/月, プール2/月, かまめし&ちらし2/月
行事『炊き出し訓練(千秋センター)』
- 【6月】 交流事業: ぽど2/月, プール2/月, かまめし&ちらし2/月
- 【7月】 開所式
- 【8月】 行事『深谷地区 盆踊り』
であいの里 地域連携締め括りの会『お好み焼きパーティー』
(舞岡柏尾地域ケアプラザ, やまぶき工房)
- 【9月】 行事『芋掘り』